

スギ（新葉）

[木本] 《嗜好》



成長している枝葉



倒木更新



幼令木食害状況
(屋久島)

区別のポイント

鎌状針形の葉、螺旋状に付く。触ると痛い。著名スギ等巨木では、樹高 20 m から 40 m 近くまで達する。ギャップでは、陽樹のため稚幼樹が発芽成育し易い。シカ害を受けるのは幼令木の葉、小中径木の幹(角研ぎ)など。幼樹被害は盆栽状になる(写真参照)。

形態 常緑高木。

分布 本州・四国・九州（屋久島まで）

名前の由来 幹が直立するので直木（すぐき）や、すくすく立つ木との説。

葉 **〈全体〉** 鎌状針形の葉、螺旋状に付く。遺伝的にも分化しているオモテスギ系とウラスギ系があり、ヤクスギは、オモテスギ系（魚梁瀬スギなどに近い）、ウラスギよりも針葉は大きく広がり長いとされる。

備考 各地での観察例では、稚幼樹の新芽を採餌し、人工幼令林、天然下種更新時に影響を与える。成葉は尖った葉のため、嫌うと思われるが、含有成分によるとの説も。屋久島では、低標高域に植栽される地スギ(導入種)と 500 m ~ 1600 m 付近まで自生する高標高域のヤクスギ(オモテスギの系統)がある。

出典 樹に咲く花(山溪ハンディ図鑑5)、屋久島の森林のすがた(文一総合出版)ほか